

平成30年度事業報告書

〔自 平成30(2018)年4月1日 至 平成31(2019)年3月31日〕

当財団は、受け継がれてきた歴史ある「美濃焼」をかけがえのない地域資源と位置付け、それを活用した地域の産業・文化・観光の振興に取り組むことを「目的」としている。そのために、具現化すべき「経営理念」と、職員がとるべき「行動指針」を以下の通り定め、各種事業の実施に努めた。

財団目的

地域に根付く美濃焼を活用し、岐阜県東濃西部地域の産業、文化及び観光の振興に寄与する。

経営理念

- (1) 美濃焼産業の振興
美濃焼のブランド力の向上と市場開拓に寄与します。
- (2) セラミックパークMINOの活性化と運営の健全化
貸出施設の稼働率の向上と徹底した運営経費削減により、健全経営を推進します。
- (3) 地域観光の振興
岐阜県現代陶芸美術館（以下、「美術館」）の運営を支援し、地域の産業観光の拠点として、施設の魅力造と観光客の増大を推進します。

行動指針

- (1) “安全、安心、快適”な環境整備
- (2) “自主性、責任感、使命感”を旨とした勤務態度
- (3) “スピード、挑戦、やり抜く”業務推進力

1 利用者サービス向上の取組み

以下のとおり来館者サービスを実施することにより、来館者に親しまれ、リピーターとなっていただけの施設づくりを進めた。

(1) 総合案内サービス

来館者にとって一番対応ができるショップスタッフを来館者向けの総合案内サービス担当とし、様々な情報を集約し、美術館、作陶館、イベント会場等の施設に関する案内、近隣の観光施設、食事処の案内など、地域の観光やアフターコンベンションに関する情報提供を行った。また、茶室など施設の紹介にも努めた。

見学希望があった際には、事務所スタッフと連携し迅速で丁寧な案内に努めた。

(2) 利用者の意見の反映や苦情への対応

ア 来館者アンケートの実施

常日頃の来館者からは、アンケート用紙によりお客様の率直な意見を伺った。回

収めた意見はスタッフ全員で共有し、施設運営など早急な改善を行うとともに、次のイベントの企画内容等の改善に努めた。

イ 貸館施設利用者アンケートの実施

全ての貸館利用者に対してアンケート用紙により、職員対応、貸館利用に関する意見、要望の記入を行ってもらい、設備・備品等の管理、補充、修繕などを行い、貸館業務にかかわる一切を万全の体制と良好な施設利用環境となるよう努めた。

ウ ショップのインフォメーション業務において担当者が伺ったお客様からの要望、意見等は財団の日報に記入するとともに、財団内でその対応を検討し、早期に改善するなど施設全体の改善に活用した。

エ 財団や県へのメールなどの直接の苦情に対しては、県と協議しその対応、改善を図った。

(3) スタッフ勉強会の開催

お客様への接遇、マナー向上を図るため、岐阜県現代陶芸美術館の接遇・マナー研修に参加し、お客様への対応力を養った。また、貸館施設の状況、観光案内など、特に受付担当であるショップスタッフと事務所スタッフとの常時の情報共有に努めた。

(4) 快適な施設環境の整備

財団スタッフ全体で清掃や施設設備の不備に注意を払い、来館者の快適な施設環境の創出を行った。

2 貸館施設稼働率向上の取組

当施設の貸館施設は、3年ごとに開催する国際陶磁器フェスティバルをピークとした稼働率の推移が定型化している。さらなる稼働率向上、目標稼働率の達成に向け、以下の取組みを行った。

ア イベント会社、広告代理店及びマスコミ関連各社を、施設の広報活動を兼ねて定期的に訪問し、当施設を利用したイベント開催の働きかけを行った。また、イベント開催事業者などの関連情報を収集し、DMによる施設紹介、営業担当者が電話や訪問による営業活動を行い、需要の掘り起こしに努めた。

イ 貸館施設の予約については、施設予約台帳において正確に管理し、空き情報を確認のうえ、お客様の利用内容や規模に合わせた丁寧な対応を心掛けた。また、併せて条例施行規則や利用料金規程に基づく貸館施設の受付を行うとともに、適切な使用についての周知に努めた。

ウ 県による新「県有施設予約システム」導入の方針を受け、貸館施設予約申し込みのあり方について検討を行った。

エ 新規の施設利用者に対し、施設の利用支援業務の需要を把握するとともに、利用形態に応じたきめ細かな利用支援を行い、今後の継続利用に結びつくよう努めた。

オ 貸館施設の利用希望者には、要望に応じて随時館内を案内するなど、懇切丁寧な説明

を心掛けた。

カ 陶磁器産業の振興等を目的にして展示ホール、国際会議場を使用する場合の減免制度の周知を図り、地域の陶磁器産業界などに展示会、カタログ撮影会、組合の総会などによる施設利用を働き掛けた。

□施設別稼働率・施設使用料収入・来館者数の実績

施設別稼働率	目標稼働率	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
展示ホール	40 %	36.8 %	52.4 %	42.6 %
国際会議場	30 %	33.1 %	27.3 %	21.7 %
イベント ホール	40 %	36.2 %	39.3 %	34.3 %
小会議室	40 %	40.4 %	44.8 %	37.9 %
茶 室	20 %	12.5 %	21.2 %	14.2 %
屋上広場	30 %	21.7 %	28.7 %	25.9 %
施設使用料収入		32,280 千円	37,706 千円	32,469 千円
来館者数 (施設全体)		249,991 人	250,259 人	223,993 人

(注) 稼働率は、該当施設年間利用日数／年間開館

3 セラミックパークMINO作陶館の運営

美濃焼文化の根付く地域の特色を活かし、幅広い層の来館者に陶芸文化の素晴らしさを伝える作陶体験施設運営の推進に努めた。

- (1) 毎週金・土・日は、観光客などの日帰り客を対象とした、気軽に参加できる作陶、上絵付けの各体験コースを開設するとともに、国際会議場など施設内スペースを有効活用し、弾力的な人員配置により、積極的に団体客の受け入れにも対応した。

[多治見市主催の土曜学習:100人規模の絵付け体験]

- (2) 毎週火・水・木を中心にじっくり陶芸に取り組みたい方に、伝統工芸士を講師として少人数でのきめ細かい指導を行う年間講座を開設した。

[年間講座：36人、6講座／週、各35回／年開催]

- (3) 四季折々の行事に合わせた作品制作を体験するワークショップ企画を実施した。

[年間 2回開催] (そうめん鉢を作ろう・グラタン皿を作ろう)

- (4) 小学校学童保育からの要望に基づき、職員が出向き出張作陶体験を実施した。

[年間 2回実施]

□利用実績

	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
講座参加者	1,160 人	1,273 人	1,092 人
その他(1 日体験コースなど)	3,191 人	3,656 人	3,564 人
合 計	4,351 人	4,929 人	4,656 人
事業収益	4,652 千円	5,184 千円	4,860 千円

4 自主企画事業の実施及び地場産業の振興に向けた取り組み

セラミックパーク MINO の主たる設置目的である陶磁器産業・文化及び観光の振興をテーマとした事業を中心に実施した。

(1) 陶芸作家展 2018

「美濃陶芸文化の発信」を目的に、美濃の地を代表する陶芸作家の作品を紹介した。人間国宝から若手作家に至るまで、幅広い作家層への出品要請のもと、展覧会と販売会の要素を兼ね備えた、当地でしか開催できない高い独自性と品質を備えた内容とした。

今回も、この地から広く陶芸文化の魅力を発信し新しい顧客の創造に努めるべく、作家の魅力を最大限に引き出す展示構成、美濃の地で今後の活躍が大いに期待される 20 代若手のチャレンジ企画「次世代を担う巨匠の卵たち」と題した特別コーナーの展示を行い、陶芸作家が互いに切磋琢磨する出品環境と、来場者の満足度を高める催事構成を表現した。

実演ステージでは陶芸と別の異業種（食・花・酒）とのコラボレーションステージを開催し、好評を博した

[開催日：平成 30 年 5 月 3 日（木・祝）～5 月 6 日（日）]

□「陶芸作家展」実績

	出品者数	入場者数	売上高（陶磁器）
平成 30 年度	147 名	8,480 名	11,028 千円
平成 29 年度	148 名	9,975 名	14,040 千円
平成 28 年度	138 名	9,786 名	13,044 千円

(2) 美濃焼インキュベーション事業

美濃焼のブランド価値の向上と産業振興を目的に実施した。

ア 異業種とのコラボレーションによる美濃焼のブランド化の促進

“美濃焼＝安い”というイメージを払拭することと、美濃焼のつくり手のブランディングに寄与することを目的に、日本を代表するラグジュアリーブランド「レクサス」とのコラボレーションを継続実施し、ライフスタイルカタログ「レクサスコレクショ

ン」への掲載商品を提案した。今年度は、新規で2社2アイテム、合計で6社8アイテムが掲載された。

高級磁器ブランド「ノリタケ」以外に掲載された陶磁器は、地域ブランドでは美濃焼だけであり、“伝統と創造性が同居する美濃焼”として紹介された。

イ 「セラミックバレー」普及事業

「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」において披露されたロゴを、美濃焼産業及び幅広く地域振興に活用するため、運営協議会を立ち上げるべく、地元市民の有志と協議を重ねた。

(3) セラパーク楽々市

※ 『セラパーク楽々市』は、「あきんど市」(財団主催)、「青空マルシェ」(財団主催)、「骨董市」(民間主催)の総称。毎月原則、第4日曜日と前日の土曜日開催(年間12回)。

定期開催事業として、施設稼働率の向上及び施設のにぎわい創出に加え、陶磁器産業やその他の地元小売業等の出店による地域活性化を目的として開催した。

2004年8月からの継続的な開催実績を生かしながら、構成催事である「骨董市」(民間主催)との更なる連携強化を図り、集客増加に努めた。

同日開催を行う「あきんど市」「青空マルシェ」「骨董市」の3本建てにより家族3世代で楽しめる企画とし、更なる活性化を図った。

ア 「あきんど市」ではマンネリ防止策とし、新規出店者を継続的に募ると共に、ミニワークショップや子供向けミニイベントを新規開催することで、本催事の価値を高め、魅力的な企画内容を目指した。

企画継続実績が15年目となる同運営については、出店者から選出されたメンバーで構成する運営委員会の機能強化を図り、出店者による自主的な運営を目指した。

イ 「あきんど市15周年特別企画 新春大感謝祭」を開催。

例年行っている感謝祭(年に2度)を15周年用に本年は1度の開催で内容を拡大し、内容を凝縮。よりお祭り感を強調して実施。

大道芸人、耳かきピアノコンサート、子供向け謎解きゲーム、ワークショップ、健康測定、BINGO大会など3世代で1日中楽しめる企画内容で開催した。

来場者、出展者ともに大変好評だったため、次年度以降も年一度の開催で企画予定。

【2019年1月26日(土)、27日(日) 来場者数 2,060名】

ウ 「青空マルシェ」は東濃地域の採れたての野菜や県産品を中心とするマルシェとし、つくり手の顔を見て直接買う販売形態で会話をして買い物をするという買い物本来の楽しさと呼び起こした。特に地産地消を意識し地元農家、加工製品を中心に出店要請を行った。

昨今は類似のイベントが近隣で増加してきた為、差別化を図る意味で夏まつりなどの季節イベントや未就学児から小学生を集客するクイズラリーなどのこども企画を毎月開催した。また、陶器に親しみが湧くような催事作りを意識し、土を使用したゲームなど子供向けのイベントを企画した。

(4) 地域の陶磁器産業界及び陶芸界との連携

「陶芸作家展 2018」では公益社団法人美濃陶芸協会と美濃焼伝統工芸士会に、美濃焼インキュベーション事業では、美濃焼メーカーや多治見市陶磁器卸商業協同組合連合会の協力のもと事業を推進した。

また、物品販売事業では、岐阜県陶磁器卸商業協同組合連合会から一部商品の供給など協力を受け、ショップ運営を実施した。

5 施設としての魅力創造

(1) 回廊及びエントランスを魅せる空間として活用

エントランスでは、美濃焼に関する催事、周辺施設の施設案内や催事情報など各種パンフレットやチラシ等を常置するとともに、回廊壁面においてもポスター掲示により近隣の催事情報や、産業、観光など、来館者への情報発信を行った。

また、アルコープにおいては、国際陶磁器フェスティバル美濃の受賞作品や美濃焼の展示を行い、来館者にとって美濃焼にかかわる空間とした。

(2) 自然観察会の開催及び里山の整備

ア 常日頃から、希少植物“シデコブシ”など、施設をとりまく自然環境保全を行い、地域の自然を体感できる「里山憩いゾーン」として幅広い層への啓発に努めた。

イ 親子参加を対象とした昆虫採集、バードウォッチング、木の実などの自然とふれあう「森の観察会」を実施し、楽しんで施設の自然環境保全の啓発を行った。

ウ 敷地内の環境調査や「森の観察会」には、企画運営など「土岐川観察館」の支援を受け実施した。

(3) 岐阜県現代陶芸美術館との連携

自主企画事業と作陶体験施設の集客を促進する観光施設として、また、県民への陶芸美術の涵養と陶磁器産業の振興に資するため、岐阜県現代陶芸美術館（以下美術館）との連携を図った。

ア 財団が毎月発行する「イベントカレンダー」に美術館の催事情報を掲載し、広報活動を行った。

イ 作陶館やイベントホールで、美術館が行うワークショップ等を開催した。

ウ 美術館の運営諮問機関である美術館協議会委員として局長が参加し、セラミックパーク MINO 全体の活用について協議した。

エ 美術館と毎月意見交換を行い、施設全体で運営上の改善活動や施設修繕に取り組んだ。

(4) 魅力ある観光コースの設定

美術館、作陶体験施設、物販施設、飲食施設、敷地内の散策路など、施設の構成要素を組み合わせ、オリジナルで魅力的な観光コースを設定を目指した。

本年度は美術館と定期的に協議を重ね、美術館の展示企画に合わせて、子供向け憩いスペースの設置に協力した。

次年度は、岐阜県森林アカデミースタッフを交えた意見交換を行い、施設の魅力を高めるための企画を検討、実施していく。

6 広報に関する取組について

ア イベントカレンダーの発行

セラミックパーク MINO における催事情報等を掲載したイベントカレンダーを毎月発行し、県内の主要施設への備え置き、様々な方へ施設の周知を図った。

イ 自主企画事業等の開催に向けた広報

樂々市などの自主企画事業やショップでの展示企画の際は、新聞社、県、3市の広報へこまめに情報提供を実施した。また、併せてラジオ媒体を通して広報を行った。

ウ ホームページ、メールマガジンの活用

ホームページは自主企画事業や四季の最新情報を常に提供するよう内容を更新した。また、メールマガジン、SNSの発行も組み合わせ、費用を抑えながらも相乗的なPRに努めた。

7 ショップ&ギャラリーMI-NOの運営

美濃焼産業発展に寄与するため、地元作家等の陶磁器販売や県産品の販売を行うことにより、来館者にとって多様な魅力を備えた施設となるよう店舗運営に努めた。

ア 作家、窯元、商社等の新作を素早く反映させ、陶磁器産地ならではの魅力的な品揃えに努めた。

イ ディスプレイには、四季折々の変化と行事を取り入れ、常に食卓目線のコーディネートを行った。

ウ ギャラリーコーナーでは、陶磁器関係を中心に、テーマを決めた企画展を実施（年間7回）することにより、若手作家等の応援に心がけた。また、陶磁器のみならず地元で活動している作り手の異素材のクラフト作品等の展示販売も行った。

エ ホームページに美濃焼の紹介や器と盛り付けなど美濃焼に関する広報に努めた。

オ お客様の状況を注意しながら声掛けを心掛け、安心して買い物ができる雰囲気を作り、に務めた。

カ お客様に対して、器の使い方や美濃焼の説明等ができるよう、スタッフ同士互いに情報・知識を共有できる職場環境とした。

キ お客様リストにより商品紹介や企画展の案内を行い、リピーターの獲得に努めた。

ク SNSによる作品や商品の紹介に努めた。

□販売実績

	平成30年度	平成29年度	平成28年度
売上目標	15,000千円	25,000千円	17,000千円
売上実績	24,873千円	24,636千円	17,437千円

8 飲食施設の委託運営事業の実施

美術館と貸館施設を擁する施設として来館者の利便性向上のため、飲食施設の運営を専門業者に委託した。

9 施設の維持管理に関する業務

セラミックパークMINO全体を、お客様の目線で「安全・安心・快適」な環境となるよう整備すると共に、無駄な経費の削減に努めた。

(1) 施設の安全確認

職員による施設巡視を徹底し、目視による日々の施設の安全確認を実施した。また発見された不具合等に対しては、必要な対策をスピード感をもって実行した。

(2) 施設の清掃業務

館内清掃は、清掃員3名を配置させ日常清掃を実施した。特にトイレについては、常に清潔な状態を保つよう心がけた。

また、定期清掃として、フローリング床のワックスがけやガラス清掃などを実施した。

・木床洗浄・ワックス塗布 年4回

・大理石洗浄 年3回

・カーペット洗浄・ガラス清掃 年2回

緑地管理業務は、シルバー人材センターを活用し、施設の玄関口である駐車場その他敷地内の清掃、樹木管理、草刈り及び敷地内里山の下刈り等の管理を実施した。

(3) 施設の警備体制

24時間体制で警備員1名を常駐させ、昼間は施設内巡回を中心とした警備、夜間は監視カメラ、中央監視装置などを活用した警備員室での機械警備を実施した。

(4) 環境衛生管理業務

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づく適切な管理を実施した。

(5) 設備の保守管理

設備員2名を配置させ、施設内の空調、機械設備及び電気設備の日常的、定期的な点検管理を実施し、故障の未然防止、故障時の早期対応に努めるとともに、年間を通じて法令上必要な有資格者による点検等を行った。また、エスカレーター・エレベーターをはじめとした下記の設備機器については、個別に業務委託を実施し、各機器の保守管理を行った。

設備機器名	点検回数	設備機器名	点検回数
昇降設備保守点検	1回/月	自動制御機器・中央監視装置	2回/年
消防防災設備保守点検	2回/年	吸収式冷温水発生機保守点検	6回/年
高圧受変電設備保守点検	1回/月	氷蓄熱ヒートポンプ保守点検	2回/年
自動ドア等保守点検	3回/年	吊物・床機構保守点検	2回/年

(6) 維持管理経費の節減に向けた取組み

経年劣化に伴う修繕費の増大に対し、設備保守点検などの外部委託費、電気・ガス、水道、清掃用具・電球類等の消耗品費などの維持管理経費の節減に以下のとおり努めた。

- ア 電気・ガス等については、館内空調の温度管理（夏期28度、冬期20度、美術館を除く）の徹底、館内照明の間引き点灯、部分消灯の徹底、滝の弾力的運用等に努めた。
- イ 外部委託費の内、契約期間を長期契約にできるものについては、長期契約を実施し、委託料の節減及び事務手続きの削減に努めた。
- ウ 消耗品費については、計画的なまとめ買いに努めた。
- エ 経費節減の一環として、新規有料貸出備品の設定等見直しを図った。

(7) 施設・設備の修繕及び中長期保全計画

- ア 施設・設備の点検等により不具合の早期発見に努め、さらに計画的な修繕、更新を実施し、利用者が安全かつ安心して利用できるよう適切な維持管理に努めた。
- イ 中長期保全計画については、継続的に状況把握を行い、随時計画を見直し、財政負担の軽減及び効率的な施設保全に努めた。

10 危機管理体制の整備

来場者の安全確保を図るため、「セラミックパークMINO危機管理規程」に基づき、地震など自然災害や火災への対応方法、不審者の侵入、不審物など事件・事故への対応について、職員等に周知を図った。また、火災避難訓練については年2回実施し、有事の際に的確かつ迅速な対応のできる関係各機関との連携体制を図った。

また、施設内での万一の事故等に備えるため施設賠償責任保険に加入した。
その他、情報処理セキュリティーや個人情報保護などについて研修を行い、業務全般に万全を期した。

1 1 その他

(1) 評議員会・理事会等の開催

事業計画、予算など財団運営の基本的事項については、理事会、評議員会に諮り、法令に基づいた適正な財団運営を行った。

また、各種規程の改正を適宜行い、財団運営の見直しを図った。

(2) 利用促進協議会の運営

岐阜県及び3市の各自治体や陶磁器関係団体からなる「利用促進協議会」を開催し、第2期活性化プランを策定し、貸館施設の稼働率向上対策や公共施設としてのにぎわい創出などの取り組みを推進した。

(3) 適正な財団運営の推進

県の指定管理者、県及び3市の財政援助団体であることを鑑み、会計処理、備品管理、個人情報の取扱など、日々の業務における必要な関係法令、諸規程等についての職員研修を実施し、職員の資質向上を図り、適正な財団運営を行った。

また、公益財団法人としての事業運営、会計処理について法令等に沿って運営するよう適正な処理に努めた。